



2024年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2023年10月31日

上場会社名 日本食品化工株式会社 上場取引所 東
コード番号 2892 URL <https://www.nisshoku.co.jp>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 荒川 健
問合せ先責任者 (役職名) 経理部経理課長 (氏名) 中村 圭吾 TEL 0545-52-3181
四半期報告書提出予定日 2023年11月13日 配当支払開始予定日 2023年12月5日
四半期決算補足説明資料作成の有無：無
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第2四半期の業績 (2023年4月1日～2023年9月30日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	36,123	10.6	2,217	△18.5	3,015	△0.5	2,577	23.3
2023年3月期第2四半期	32,670	25.4	2,719	46.9	3,030	40.2	2,091	34.3

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	524.10	—
2023年3月期第2四半期	425.18	—

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	48,747	24,938	51.2
2023年3月期	46,504	22,698	48.8

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 24,938百万円 2023年3月期 22,698百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	—	—	180.00	180.00
2024年3月期	—	100.00	—	—	—
2024年3月期 (予想)	—	—	—	100.00	200.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：有

配当予想の修正については、本日公表いたしました「業績予想の修正並びに剰余金の配当（中間配当）及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

3. 2024年3月期の業績予想 (2023年4月1日～2024年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	66,500	2.9	3,000	△15.3	3,300	△1.2	2,700	3.6	548.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

業績予想の修正については、本日公表いたしました「業績予想の修正並びに剰余金の配当（中間配当）及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期2Q	6,400,000株	2023年3月期	6,400,000株
② 期末自己株式数	2024年3月期2Q	1,481,536株	2023年3月期	1,481,455株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期2Q	4,918,516株	2023年3月期2Q	4,918,684株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信（添付資料）3ページの「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第2四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症収束を受けた社会経済活動の正常化を反映してインバウンドやレジャー需要回復の動きが強まった一方で、エネルギー価格上昇・生活必需品の値上げ等の物価高や、台風による人流・物流の停滞、長期化する人手不足等の影響により緩やかな回復に留まりました。また、欧米各国の金融引き締めや円安進行の継続、地政学リスク等により先行きは極めて不透明な状況となりました。

原料とうもろこしのシカゴ相場は、期初657セント/ブッシェル台で始まり主産地の降雨や米国農務省の新穀作付面積の上方修正等から7月に476セント/ブッシェル台迄値を下げましたが、中旬にはロシアが黒海の穀物輸送回廊の延長に合意せず離脱を表明し、ウクライナ情勢の緊迫から一時560セント/ブッシェル台迄値を上げました。しかしその後、米国の豊作観測が強まったことやブラジル産穀物の堅調な輸出等から値を下げ、第2四半期末時点では476セント/ブッシェル台となりました。

WTI原油相場は期初80ドル/バレル台で始まり、欧米利上げを受け景気後退感による需要減退観測や米国債務上限問題によるリスク回避の売りや、イラン核合意再建により原油供給が増加する見込み等から67ドル/バレル台迄値を下げましたが、ウクライナ情勢の悪化による地政学リスクの高まりやOPECプラスの減産に加えサウジアラビアやロシアの自主減産による供給減少懸念等から値を上げ、第2四半期末時点では90ドル/バレル台となりました。

米国から日本までの穀物海上運賃は、期初53ドル/トン台で始まり荷動きが低調に推移し、船舶余剰感から43ドル/トン台迄値を下げましたが、原油相場の高騰に伴う船舶燃料油の上昇や南米産穀物の荷動き増加等から値を上げ、第2四半期末時点では56ドル/トン台となりました。

為替相場は、期初134円/ドル台で始まり、好調な米国経済指標等から米金利上昇が継続する一方、本邦では金融緩和を継続し、日米金融政策の違いを背景にしたドル買いによる円安が進行し、その後も市場予想を上回る米経済指標を受け追加利上げ観測が強まったことや本邦金融政策の現状維持が発表されたこと等から更に円安が進行し、第2四半期末時点では149円/ドル台となりました。

販売面では、社会経済活動の正常化が進み、人流が回復したことで、観光、イベントといった分野でチラシ・パンフレットに使用される澱粉製品の需要が回復傾向であったものの、新聞、雑誌のデジタル化等の影響が色濃く、紙の生産量の減少が依然として続いており、製紙向け澱粉の販売数量は前年同四半期に比べ減少しました。糖化製品は、新型コロナウイルス感染症の法的な扱いが2類から5類へ移行したことによる人流回復と、大型連休が天候に恵まれ需要増の期待があった中、物価上昇の影響で一般消費者の節約志向が強まり、需要が減退する場面もありましたが、夏の猛暑の影響により飲料向けを中心に販売数量は増加しました。外食産業を始めとする業務用需要も回復傾向であることによる同用途向けの販売数量も増加し、糖化製品全体でも販売数量が増加する結果となりました。なお、売上高については、原料とうもろこし及び原油相場高騰による製造費用上昇を背景とした製品価格の適正化が進捗したことにより、澱粉製品、糖化製品いずれも前年同四半期に比べて増収となりました。

また、2023年5月に当社が保有していた株式会社サニーメイズの全株式の譲渡を行ったため、同社を関連会社から除外しております。これに伴い、関係会社株式売却益566百万円を特別利益として計上しております。

この結果、当第2四半期累計期間における当社の売上高は、361億2千万円(前年同四半期比10.6%増)、営業利益は22億1千万円(前年同四半期比18.5%減)、経常利益は30億1千万円(前年同四半期比0.5%減)、四半期純利益は25億7千万円(前年同四半期比23.3%増)となりました。

次に、各部門の販売概況は以下のとおりです。

(澱粉部門)

澱粉部門は、社会経済活動が再開したことにより食品向け澱粉需要は回復傾向にあるものの、製紙向け澱粉需要が全体的に減少したことを受け、澱粉製品の販売数量は減少しました。一方、原料や燃料の高騰を背景とした製品価格の適正化が進捗したことで、売上高は70億2千万円と前年同四半期比3億2千万円(4.8%)の増収となりました。

(糖化製品部門)

糖化製品部門は、経済再開により外出機会が増加したことで業務用販売が回復、更に夏の猛暑の影響により飲料向け販売数量が増加しました。製品価格の適正化が進捗したことにより、売上高は234億円と前年同四半期比28億円(13.6%)の増収となりました。

(ファインケミカル部門)

ファインケミカル部門は、社会経済活動の正常化が進んだ影響により国内向け製品販売も緩やかに回復、売上高は11億8千万円と前年同四半期比1億2千万円(12.3%)の増収となりました。

(副産物部門)

副産物部門は、主製品の販売増により生産量が増加、更に前年と同様に穀物相場高に伴う価格上昇の影響を受け、売上高は45億1千万円と前年同四半期比1億9千万円(4.6%)の増収となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期会計期間における総資産は487億4千万円となり、前事業年度末と比較して22億4千万円の増加となりました。その主な要因は、原材料及び貯蔵品が17億4千万円減少したものの、売掛金が22億9千万円、商品及び製品が7億1千万円、電子記録債権が6億4千万円増加したこと等によるものです。また、負債については238億円となり、前事業年度末と比較してほぼ同額となりました。その主な要因は、賞与引当金が7億4千万円、買掛金が3億円減少したものの、借入金（純額）が13億円増加したこと等によるものです。

なお、純資産は249億3千万円となり、自己資本比率は前事業年度末と比較して2.4ポイント増加し、51.1%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年3月期の業績予想につきましては、本日公表しました「業績予想の修正並びに剰余金の配当（中間配当）及び配当予想の修正に関するお知らせ」をご参照下さい。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	411	228
売掛金	16,229	18,523
電子記録債権	1,495	2,139
商品及び製品	4,293	5,007
仕掛品	3,386	3,255
原材料及び貯蔵品	5,040	3,295
前渡金	0	28
その他	390	1,122
貸倒引当金	△7	△7
流動資産合計	31,240	33,592
固定資産		
有形固定資産		
建物	3,507	3,753
構築物	332	333
機械及び装置	5,760	5,239
車両運搬具	9	6
工具、器具及び備品	165	165
土地	1,862	1,862
リース資産	136	121
建設仮勘定	695	1,196
有形固定資産合計	12,468	12,680
無形固定資産		
借地権	45	45
ソフトウェア	207	173
その他	33	43
無形固定資産合計	286	262
投資その他の資産		
投資有価証券	183	193
関係会社株式	371	323
繰延税金資産	1,814	1,557
その他	453	450
貸倒引当金	△312	△312
投資その他の資産合計	2,509	2,212
固定資産合計	15,264	15,154
資産合計	46,504	48,747

(単位：百万円)

	前事業年度 (2023年3月31日)	当第2四半期会計期間 (2023年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,823	1,519
短期借入金	10,893	12,296
未払金	3,577	3,592
未払法人税等	952	1,003
賞与引当金	1,382	639
役員賞与引当金	57	27
その他	675	380
流動負債合計	19,362	19,459
固定負債		
長期借入金	100	—
退職給付引当金	4,142	4,179
環境対策引当金	24	—
資産除去債務	119	120
その他	57	49
固定負債合計	4,443	4,348
負債合計	23,806	23,808
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,600	1,600
資本剰余金		
資本準備金	327	327
その他資本剰余金	0	0
資本剰余金合計	327	327
利益剰余金		
利益準備金	400	400
その他利益剰余金		
建物圧縮積立金	127	123
構築物圧縮積立金	0	0
機械装置圧縮積立金	0	0
土地圧縮積立金	113	113
別途積立金	7,000	7,000
繰越利益剰余金	15,397	17,094
利益剰余金合計	23,039	24,731
自己株式	△2,148	△2,148
株主資本合計	22,818	24,511
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	73	79
繰延ヘッジ損益	△194	347
評価・換算差額等合計	△120	427
純資産合計	22,698	24,938
負債純資産合計	46,504	48,747

(2) 四半期損益計算書

(第2四半期累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
売上高	32,670	36,123
売上原価	26,072	29,905
売上総利益	6,598	6,218
販売費及び一般管理費	3,878	4,000
営業利益	2,719	2,217
営業外収益		
受取配当金	316	470
為替差益	265	272
その他	70	106
営業外収益合計	652	849
営業外費用		
支払利息	7	10
固定資産除却損	22	37
貸倒引当金繰入額	308	—
その他	2	3
営業外費用合計	341	51
経常利益	3,030	3,015
特別利益		
関係会社株式売却益	—	566
特別利益合計	—	566
税引前四半期純利益	3,030	3,581
法人税、住民税及び事業税	988	988
法人税等調整額	△48	15
法人税等合計	939	1,004
四半期純利益	2,091	2,577

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。